

山下先生スピーチ



始めに、プーチン大統領が日本に訪れた時のことについて話します。プーチン大統領が講道館に来たときに、「講道館に来ると我が家に帰ってきた気がする。世界中の人々がそう思っている。講道館は第二の故郷である。」と言われておりました。柔道は世界中に広がっている。柔道を通して、日本の文化が世界に広がっていく。このことの重要性を日本人、柔道関係者はもっと評価しても良いと思う。

嘉納館長が、プーチン大統領が訪れた時に、六段の表彰状と紅白の帯を渡しました。プーチン大統領は受け取ったが帯をしめることを断り柔道家だから六段の帯の価値がよく分かるがまだそのレベルではなく、もっと練習をしてから帯を締めたいとおっしゃった。プーチン大統領は柔道がなかったら今の私はない、柔道はスポーツではなく、哲学であるとおっしゃっている。プーチン大統領は柔道の精神をよく理解して実践している。

プーチン大統領は柔道が好きで、柔道の精神をよく学ばれている。柔道を通して、日本の文化に興味をもったといわれている。

私は世界に柔道を広げたい。技術だけでなく、柔道の心を伝えて世界に広げたい。柔道を通して、日本に対して興味をもって親しみをもってもらうことが、私の役目だと思う。柔道の本質を世界の人に対して広げる活動を大切にしたい。

私が柔道を始めたきっかけは、登校拒否だったのを、親が柔道場にビシビシ根性を鍛えて欲しいと、連れて行ったからである。しかし、ただ柔道をしているだけでは何も変わらない。そこに技術指導だけでなく柔道の「道」の教えが入ってきて、子ども達も変わってくと考える。私は中学校で素晴らしい恩師に出会った。その恩師は、「柔道のチャンプを目指すのではない、人生の勝利者を目指しなさい。」柔道を一生懸命頑張れば、柔道を通して、相手を思いやる、あるいはルールを守る、仲間と力を合わせる、我慢する、目標に向かって努力するなど、いろんな事を学ぶことが出来る。これは、学校の授業では学べないことである。柔道だけ頑張っていたら柔道のチャンプになれても、人生の勝利者にはなれない。人生の勝利者になるためには、勉強も頑張る、素直な心をもつ、親や先生に対しても、自分のことを思ってくれる人の話を素直に聞くことが柔道を強くなるために、一番大切なことであると教わった。私も素直な心を持つことが人間成長していくために一番大切な基本的なことだと思う。

柔道強いからといって威張っているような人はみんなが目指すような人ではない。本当に強い

とは「能ある鷹は爪を隠す」ように、人前では見せないものである。私は柔道やる人間はありがたいという心構えをもっておくことが大切だということ学んだ。そして、自分自身も変わったと思う。勝負の世界で生きてきた人間なので勝ち負けにこだわってきたが、柔道は人づくりであり、人間形成である。それがなくなったら柔道ではないと思う。

柔道界はだんだん勝ち負けだけにこだわって、マナーがかけてきていた。警察の大会の時、柔道の選手、観客のやじなど、非常にひどかった。しかし、21世紀で大きく方向が変わってきた。2001年1月、嘉納館長の「21世紀これからは柔道を通した人づくりをもっと大事にしよう」という言葉をきっかけに柔道ルネッサンスができあがった。

私の好きな言葉に伝統とある。伝統とは形を継承することをいわず、魂を、精神を継承するという。本当に、嘉納師範がつってくれた柔道を継承してきたのか、勝ち負けだけをもとめて、美しい一本だけをもとめて、もしかしたらもっと大切な魂を、精神を嘉納師範がなんのために柔道を起こしたのか、そして何を目指したのか見失っている。

柔道界はここ三年四年で変わってきた。中体連、中学校の先生方が柔道ルネッサンス運動に真剣に取り組んでいる。最近全ての県に柔道ルネッサンス委員がいるようになった。多くの先生方が勝ち負けも大切だがやはり柔道は人づくりだと、伝えている。

しかしまだまだ抱える問題がたくさんある。全国教員大会では、勝ち負けにこだわってマナーが守られていない。変わっていくのはわれわれ指導者であると思う。多くの人の力が必要である。

柔道をやっている人間が言うのではなく、柔道をやらない選手がわれわれを見て、やはり柔道は、ほかのスポーツと違う、野球やサッカーのように見ておもしろいだけでなく、柔道は人づくり、教育の一つと柔道を知らない方がたにそのように言っただけのように進めていきたい。

私には、夢がある。それは、他人に迷惑をかけて喜んでいるような人に、柔道をやってもらい、もっと人間としても価値をあげることである。柔道ならできるという気がする。私の知り合いでも柔道をやっていたら良かったと後悔している人がいっぱいいる。柔道で人は変わると思う。

また友達がいらないなど、心を閉ざして笑顔を忘れている子ども達に声をかけて仲間を招き入れ、柔道を通して、友達作り、閉ざした心が開いて笑顔を戻すことができないかと考えている。強い選手を作るだけでなく、柔道を通して、多くの子ども達に夢や希望や笑顔を作ることは、強い選手を作ることと同じくらい、あるいはそれ以上に、価値があることだと思う。

私は、少しでも柔道で成果があれば、他の武道やスポーツと一緒にやっていきたい。柔道でできれば、ほかの武道、スポーツにできないはずはないと思う。日本のような豊かな国だけでなく、貧しい国にも日本の柔道界でできたことを世界に発信したい。世界に発信しながら互い成果を出し合っていきたい。これが柔道ルネッサンスを通した夢である。

また、柔道界は今大きな問題を抱えている。少年柔道で柔道をしてきた子ども達が中学生にあがった時に柔道部がない、柔道の指導者がいないという問題がある。中学・高校の柔道をしている人口が減ってきている。立派な選手がいても、場所や指導者がいないともったいない。この問題を解決できるように取り組んでいかなければならないと考えている。

柔道は単なるスポーツではないと思う。身体運動として全身をバランスよく鍛える、また回転運

動では身を守るものであり、日本の心、相手を思いやることを大切にすることを学ぶことができる。そして日本と世界をつなぐ柔道をわれわれが実践していく。これだけのことができるのは、柔道意外にはないと思う。できれば、全ての柔道家や柔道の指導者が、技術だけでなく精神的なことを指導していきたい。そうゆう柔道をしていく方向を目指していきたいと思っている。

柔道界の進むべき方向を考えながら活動していきたいと思う。